



稚魚研究会シンポジウム

稚魚研究の明日をひらく- 沖山先生をこえて

稚魚研究会・初代会長の故沖山宗雄先生(1937-2013)の業績をたたえ、今後の研究の継続発展を目指したシンポジウムです。沖山先生は、日本海でさまざまな魚種を研究対象とし、生態学的観点を重視し、特に稚魚期における特化に注目して、仔稚魚の研究に新たな視点を導入して独自の稚魚研究を展開されました。1979-1988年には、それら深い知見と海外での情報を網羅した「稚魚分類学入門」を一般科学誌「海洋と生物」に連載されました。さらに沖山先生は研究生活の後半に、深海魚の著しい幼期特化とそれらの浮遊稚魚の研究に力を注がれました。1988年には、「日本産稚魚図鑑」(東海大学出版会)を編者として刊行され、ご自身も多くの分類群を執筆されました。これは、それまでの国内・外の同類の図鑑類を質・量ともにはるかに凌駕するものでした。その後、先生はその改訂の準備に入れ、編集・執筆中のさなか、第二版の出版(2014年3月)直前の2013年9月にご逝去されました。この第二版によって、各分類群の情報は質・量ともにより充実し、今後の課題も抽出されました。そこで、本シンポジウムでは、これまでの稚魚学の問題点、特に成果の著しい分類群の沖山「稚魚分類学入門」を基礎にした再検討、さらに今後のなすべき方向性について、親魚の分類学または分子学を専門とするコメンテーターの論評を参考にしながら参加者と共に討論するものです。併せて、それらの研究を担ってくれるであろう、特に若手研究者の育成に寄与するシンポジウムにしたいと考えています。なお、今回のシンポジウム内容を取りまとめ、近い将来、「新・稚魚分類学入門(仮称)」に結実させることを考えています。

2016年11月26日(土)・27日(日)
東京海洋大学 大講義室

シンポジウム：26日14:55~17:00/27日 9:00~16:00
懇親会：26日17:30~(於・海洋大生協食堂)
* 第34回稚魚研究会(11月26日8:55~15:00)と連動開催
* 懇親会のご参加は事前のお申し込みが必要です。10月23日(金)までに、下記のお問い合わせ先までお申し込みをお願い致します。

11/26(土)		11/27(日)	
14:55 はじめに	青海 忠久 (元・福井県大)	11:10 深海性魚類の仔稚魚： 水柱性と近底層性の相違	高見 宗広 (東海大)
15:00 OntogenyとOsteology	河野 博 (東京海洋大)	11:35 カレイ目：稚魚分類における 変態過程の意味	南 卓志 (福山大)
15:30 幼期形質と発育段階の読み方	木下 泉 (高知大)	12:00 コメンテーター[尼岡 邦夫 (元・北大水)] + 論議	
16:00 飼育技術の貢献と限界	青海 忠久 (元・福井県大)	12:20 休憩	
16:30 論議		[「Goby problemへの挑戦」]	
17:30 懇親会		13:40 1-仔稚魚を同定し、 その回遊の謎に迫る	前田 健 (沖縄科学技術大学院)
11/27(日)		14:05 2-ウキゴリ属仔稚魚を探し出し、 その個体発生と進化を辿る	原田 慈雄 (和歌山大学)
9:00 ウナギ目：レプトセファルスとは何か?	望岡 典隆 (九州大)	14:30 3-仔稚魚の生態を調べ、 環境保全を考える	加納 光樹 (茨城大)
9:25 コイ科：幼期の未特化と多様性 - 「中村守純」をレビューして	酒井 治己 (水産大)	14:55 コメンテーター[浅川 浩一(ふじのくに地球環境史ミュージアム)] + 論議	
9:50 仔稚魚の形態から見た キュウリウオ目の実像	猿渡 敏郎 (東大海洋研)	15:15 休憩	
10:15 コメンテーター[西田 睦 (琉球大)] + 論議		15:25 総合討論	
10:35 休憩		15:55 おわりに	南 卓志 (福山大)
10:45 キンメダイ目稚魚の棘要素	小西 芳信 (SEAFDEC)		

主催：稚魚研究会 コンビナー：青海 忠久(代表)・木下 泉・河野 博・立原 一憲・南 卓志・望岡 典隆
後援：水産海洋学会、日本海洋学会、日本魚類学会、日本水産学会、日本水産増殖学会、日本プランクトン学会
日本ベントス学会 (五十音順) ※一部予定を含む
お問い合わせ先：河野博 (hirokun@kaiyodai.ac.jp; TEL 03-5463-0529)

* 使用した図は、左からベニシジマイの仔魚(沖山,1988)、ミスウオの仔魚(Okiyama, 1984)